総合日本語コース報告（2009年10月～2010年9月）

濱田美和

1　はじめに

総合日本語コースは，日本語・日本文化研修留学生のために，2004年10月に新設した日本語プログラムである。富山大学の外国人留学生全体の中で，日本語・日本文化研修留学生の占める割合は低いため，本コースの授業科目はいずれも日本語課外補講上級クラスとの合同授業として開講している。2005年9月に初めて本コースの修了生を送り出し，2009年10月に6期目の学生を迎えた。

以下，2009年度秋期（2009年10月～2010年3月）及び春期（2010年4月～9月）の総合日本語コースの実施状況について報告する。

2　受講学生

「2009年度富山大学日本語・日本文化研修留学生プログラム」に参加した学生は5人で，5人ともが総合日本語コースを受講した。5人の出身国はインドネシア，韓国，中国，ミャンマー（2人）で，いずれも所属は人文学部である。なお，2006年10月より，本学との学術交流協定に基づく短期留学生も総合日本語コースに参加可能となったが，短期留学生の受講状況等については別に報告する。（「短期留学生報告」参照）

総合日本語コースの授業科目として，2009年度は秋期と春期，各期9科目を提供した。総合日本語コースの授業科目は必修科目ではないが，本学の日本語・日本文化研修留学生プログラムの修了要件の一つとして，学部や教養教育の授業科目及び総合日本語コースの授業科目の中から各期8科目以上の履修が義務づけられている。

2009年度の日本語・日本文化研修留学生の総合日本語コースの受講状況は，10科目（秋期5，春期5）が2人，13科目（秋期7，春期6），5科目（秋期3，春期2），4科目（秋期3，春期1）が各1人だった。

3　担当者

秋期，春期ともに，1人のセンター専任教員（濱田美和），及び，6人の謝金講師（遠藤祥子，高畠智美，中河和子，藤田佐和子，松岡裕見子，要門美規）が授業を担当した。いずれの期も，センター専任教員（濱田美和）がコーディネートを行った。

4　スケジュール

秋期は，2009年10月9日（金）～2010年2月9日（火）を授業期間とした。12月23日（水）～12月31日（木）は冬季休業，1月15日（金）は大学入試センター試験準備日のため，休講とした。また，曜日調整のため，1月12日（火）は月曜日の授業を行った。

春期は，2010年4月12日（月）～7月30日（金）を授業期間とした。曜日調整のため，7月23日（金）は月曜日の授業を行った。

学期ごとに，コーディネーターがオリエンテーションを行った。オリエンテーションの実施日は，秋期は2009年10月8日（木），春期は2010年4月8日（木）である。オリエンテーションでは，学生に各授業科目の目的，理解達成目標，授業計画等を掲載した授業概要の冊子（授業概要は留学生センターホームページ上にも掲載，Web版は日本語，英語，中国語の3言語での閲覧が可能）を渡し，コースの内容，各授業科目の詳細について説明を行った。春期のオリエンテーションでは，履修の際の参考となるよう，秋期の学業成績通知書を学生に渡している。履修登録は，授業開始後1週間以内に行い，履

修登録を行った授業科目について学期終了時に成績を出すシステムとしている。

5　授業内容

総合日本語コースは，上級レベルの日本語課外補講の授業と合同で授業を行っているが，日本語課外補講は成績評価が必要でないため，授業科目によっては必要に応じ，総合日本語コースの受講者だけに別課題や試験を課すなどの方法を取っている。科目別の授業概要は表1の通りである。

表1　総合日本語コース授業概要（2009年10月～2010年9月）

授業科目名 （開講曜限）	担当	授業概要
秋期：読解 I 春期：読解 A1 （火曜4限）	藤田	日本人向けに書かれた文章の読解を通して，大学での学習や研究に必要とされる実践的な日本語読解能力を身につける。主教材として『生きた素材で学ぶ 中級から上級への日本語』（The Japan Times）を使用し，秋期は奇数ユニット，春期は偶数ユニットを学ぶ。この他，適宜テーマに合った生教材も取り入れ，中上級の表現，文法，語彙を習得する。
秋期：読解 II 春期：読解 B1 （水曜2限）	遠藤	大学生活で出会う様々なテキストタイプの読み物を扱い，それぞれのタイプの読み物の特徴となる基本的な構造，文体等を把握し，それに慣れる手だてを見つける。特に留学生にとって必要な専門書，論文，教養書を読み解く技能を多面的に養うとともに，ブックレポートの際の基本的技術をマスターする。
秋期：文法 春期：文法1 （水曜1限）	遠藤	大学での学習，研究生活に必要な上級レベルの文法・表現（時を表す表現，接続表現，文末表現など）を，実践的な演習を通して，習得する。日本語能力試験1級受験対策もあわせて行う。
秋期：作文 春期：作文1 （火曜3限）	松岡	論理的な文章を書くために必要な構成，表現，文法の基本を学び，学習した項目を用いてまとまった文章を書くことで，レポートや論文を書く力をつける。文章を書く練習はコンピュータを使って行い，ワープロ文書でのレポート作成方法も同時に学ぶ。
秋期：聴解 春期：聴解1 （木曜3限）	要門	大学で講義を聞いたり，演習や研究会に参加したりする際に必要な聴解力や，日常生活に必要な聴解力を身につけるために，様々な種類の聴解練習を行う。日本語の聴解教材とあわせて，テレビやラジオ，インターネットなど，様々なメディアを用いた練習を行う。
秋期：会話 春期：会話1 （火曜2限）	松岡	ロールプレイ等での会話練習を通して，大学生活や日常生活で出会う場面や状況での会話力を伸ばす。また，人や物，経験など様々なトピックについて日本語で的確に説明・描写する力，意見や感想を述べる力を養う。
秋期：漢字 春期：漢字1 （月曜3限）	高畠	日常生活や大学の講義で用いられている漢字・漢字語の意味を理解し，正しく読み，使う力を身につける。学生一人一人のレベルに応じたテキスト（『漢字1000PLUS INTERMEDIATE KANJI BOOK』Vol. 1，Vol. 2（凡人社）等）を用い，大学での学習，研究生活に必要な漢字を習得する。
秋期：表現技術 春期：表現技術1 （月曜2限）	濱田	目上の人や初対面の人とやりとりする，あるいは，不特定多数の人に対して情報発信する際に必要となる，フォーマルな場で用いられる日本語の表現，日常的・実用的な文章の書き方，日本語での口頭発表のスキルを習得する。
秋期：日本文化 春期：日本文化1 （水曜3限）	中河	留学生として日本社会を分析する試み（情報の読みとり，整理など）をTV番組，新聞・雑誌記事，自治体広報などの様々なメディアを用いてする。日本社会を読み解くための身の回りのリソースを活用する手だてを与え，そこから得たものを日本語で発信する力を養成する。

＊1限8:45～10:15，2限10:30～12:00，3限13:00～14:30，4限14:45～16:15

いずれの科目も秋期と春期で同一の授業概要（目的）となっているが，秋期に履修した科目を春期に続けて履修できるように，授業で取り上げるトピックやタスクの内容は期ごとに変えている。このことを科目名でも示すために，2010年4月からは科目名の末尾に春期は「1」，秋期は「2」をつけて区別することにした。

なお，学生による授業評価アンケートは，日本語課外補講上級クラスとまとめて実施した。授業評価アンケートの結果については，日本語課外補講報告の7授業評価を参照いただきたい。

6　成績評価

成績評価の方法については，成績評価の基準を授業概要に明記するとともに，オリエンテーションでも説明している。この基準をもとに授業担当者が，優（80点～100点），良（70点～79点），可（60点～69点），不可（59点以下）で判定を行うが，総合日本語コースの授業科目については単位が出ないことになっている。学生への成績の通知は，9月の日本語・日本文化研修留学生プログラムの修了時に，成績を記した履修証明書の発行を留学生センター長名で行っている。

7　学生からの評価

前述の通り，各授業科目に関する授業評価アンケートは日本語課外補講とまとめて実施し，これ以外に，総合日本語コース全体についてはインタビュー調査(実施日:2010年7月26日(月)，7月29日(木)，8月5日（木)，調査対象：2009年度日本語・日本文化研修留学生（5人)）を行った。この結果を表2に示す。

表2　総合日本語コース（日本語・日本文化研修留学生）インタビュー調査結果

1．総合日本語コース：科目について	・十分だった。（4人） ・十分だと思う。論理的な文章を書く練習が一番役に立った。国ではあまりそのようなことを考えなかったため。
2．総合日本語コース：レベルについて	・ちょうど良かったと思う。（3人） ・来日前は，留学することは楽だと思っていた。母国の大学では『テーマ別　中級から学ぶ日本語』を勉強したが，自分の国では中級レベルは高いレベルで，自分は中級レベルの内容は国で十分勉強したから，大丈夫だと思っていた。しかし，日本に来てみたら違った。もっと上のレベルがあり，上級クラスに入ることになったが，上級クラスのレベルはちょうど良かったと思う。 ・授業によってレベルが違うが，ちょうどよかったと思う。
3．自身の日本語力について	・伸びたと思う。まずは聞き取る力が伸びた。母国にいるときは，日本の番組もだいたいわかったが，字幕がないとわからないことも多かった。留学後，日本の番組が字幕無しで見られるようになった。ニュースも理解できるし，お笑い番組も日本人と同じタイミングで笑えるようになった。また，日本語で作文する力も伸びた。母国にいるときは，母語から翻訳していたのが，今では日本語で考えながら書けるようになった。 ・伸びたと思う。論理的な文章を書く力が一番ついたと思う。速読の力もついたと思う。 ・会話の力は前より高くなったと思う。文章の構成力も少し高くなったと思う。ただ，方言や，男性の話はまだちょっと聞き取りにくい。 ・伸びたと思う。特に，会話と聴解の力がついた。国にいたときは日本のドラマが40%ぐらい理解できたが，今はだいたいわかるようになった。会話についても前より話せるようになった。また，発音の問題もわかったので，注意して話せるようになった。ただ，はじめて話す人はその人の話しぶりがわからないので，難しい。

	・伸びたと思う。日本語で文章を書く力と話す力がついた。以前は日本人と話すときすごく緊張して自分の思うことが自分の言葉で表せなかったが，今は日本人の友達や先生としゃべるとき，自分の気持ちを表せるようになった。しかし，たとえば新聞記事や文学的な文章など，日本語の長い文章を読むのはまだ苦手だ。
4．富山での留学生活について	・すごく勉強になった。都会のほうが良かったと思ったこともあったが，富山は思ったほど田舎ではなくて，生活に不便なことはなかった。富山の人はすごくやさしくて，留学生に関心を持ってくれる。ほかの大学に留学した友人の話を聞くと，あまり留学生に関心を示してくれない大学もあるというので，感謝している。冬は寒く，夏は暑く，富山の自然の厳しさで人間として強くなったと思う。 ・来て良かったと思う。ほかの日本人の学生と一緒に専門の授業にも出て，それは本当に大変だったが，良かった。以前日本のほかの大学に留学した先輩の話では，留学生だけのクラスで勉強して，修了レポートもないと聞いていた。先輩の話とは違ったが，勉強になって良かった。富山に来た理由は，富山のスキー場で働いたことがある日本人から富山は暮らしやすいと聞いて，富山を選んだ。実際に，富山の生活では特に問題なかった。 ・困った点は交通の不便さ。母国はバスが多いが，富山は少なく，自分は自転車に乗れなかったので，大変だった。国際交流会館の近くに店が少ない。富山の人は親切だと思う。 ・富山の人はやさしい。先生たちもわからないことがあると，親切に教えてくれた。学生も見た目はまじめそうだが，わからないことをきくと，親切に答えてくれて良かった。ただ，天気が，冬は寒かったし，雨も多かったし，夏は蒸し暑かった。 ・良かった点は，富山であるボランティア活動（障害者支援）に参加したが，その活動を通して，日本人のメンバーからいろいろなことを教えてもらった。とても有意義だった。富山に来たときに困ったことは，宗教の勧誘や，不審者に声をかけられたこと。宗教の勧誘は，学部の先生に話してすぐに対応してもらった。

まず，コースの日本語の科目やレベルについては適当だったようである。次に，自分自身の日本語力の伸びについては，話す・聞く力と，文章を書く力を中心に日本語力の伸びを実感していることがわかる。最後に，富山での留学生活については，冬は雪が多く，夏は猛暑だったこともあり，気候の厳しさを挙げる学生もいたが，富山で良い人間関係を築け，充実した留学生活を送った様子が窺えた。

8　おわりに

2009年度秋期，春期はカリキュラム等に変更はなく，これまでと同様の科目数で開講することができた。総合日本語コースの各科目における授業内容はかなり整ってきているが，今後さらに充実させるために，現在の授業内容について再検討する場を設けたいと考え，授業担当教員数名とその方法について検討を始めたところである。できるだけ早い時期に検討結果をまとめ，授業内容の改善へとつなげていきたい。